

# REST-wagon

## 取扱説明書

REST-wagonを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

### REST-wagon の特長

- 簡単折りたたみ
- 無段階ティルティング機構＋無段階背リクライニング機構
- 姿勢保持機能付
  - ・ 調節スリングシートによる背座調節
  - ・ トランクサポートベルト、骨盤サポートベルト
  - ・ 外転サポートパッド付の座シートクッション
- 広い荷物搭載スペース
- 座面奥行き、フットサポート高さ調整式
- シートユニット
  - ・ 背シートには身体の近くからベルトを取り出せるトランクサポートベルト用のダブルファスナーを装備
  - ・ 全体にメッシュ生地を採用し、さらに背シートクッション材は通気性と圧分散に優れた立体編物フュージョン(10mm)を採用



※製品の仕様は改良のために予告なく変更することがあります。

## 目次

- 安全にお使いいただくために……P1・2
- 各部の名称……P3
- 製品構成……P3
- オプション部品……P3
- 使用前点検……P3
- 各部の取り扱い……P4・5・6・7・8
- 調節スリングシートについて……P8
- 開き防止ベルトの取り扱い……P9・10
- 車への積み下ろし……P10
- 折りたたみ方・開き方……P11・12
- 車いすの取り扱い……P13
- お手入れ・メンテナンス……P14
- 仕様……P15

- ⊘ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

## ● 警告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

-----

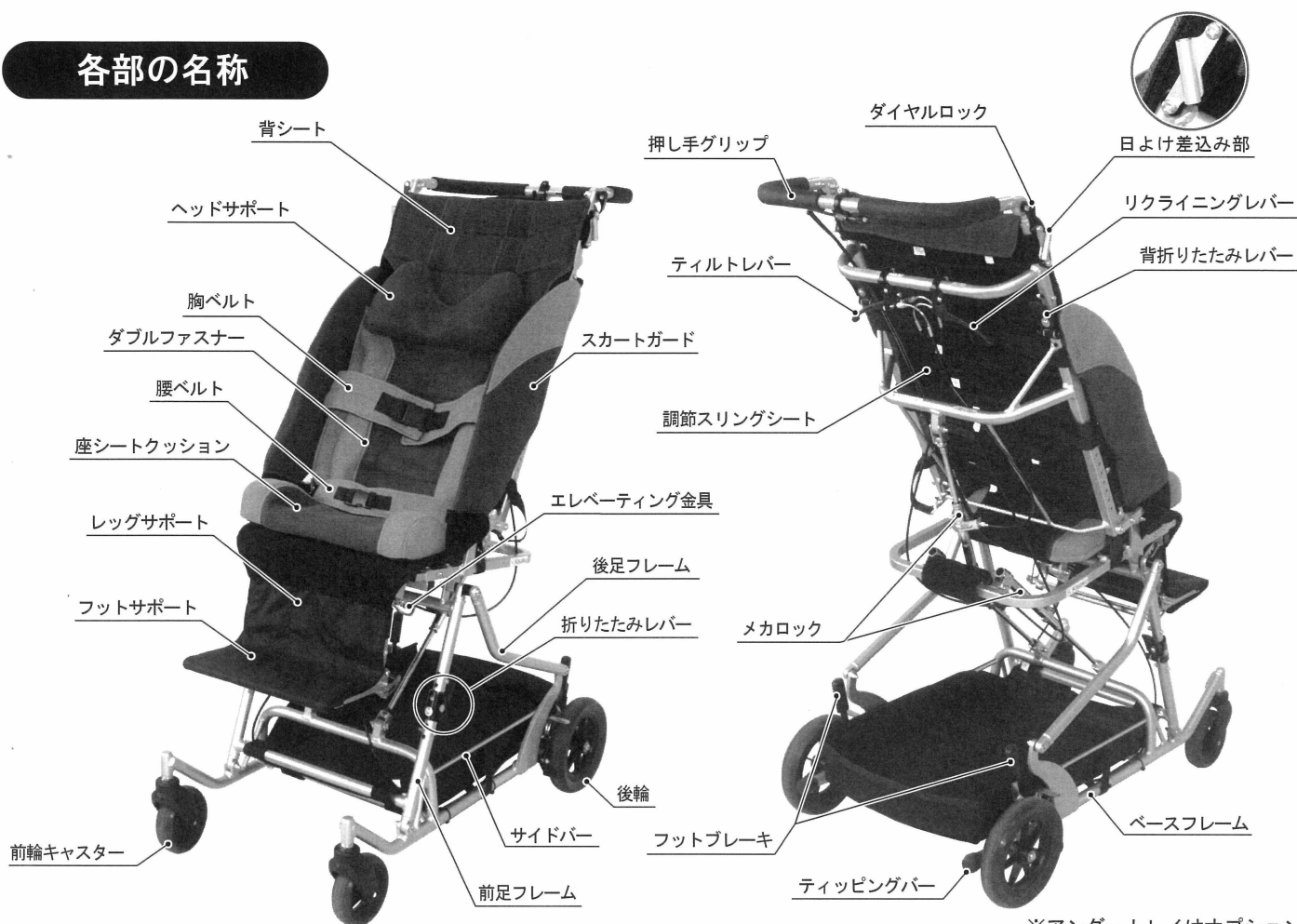
- ⊘ 本人を乗せたまま放置しないでください。
- ⊘ はずみをつけたり、つき放したりしての移動（走行）はしないでください。
- ⊘ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ⊘ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- ⊘ エスカレーターでは使用しないでください。（一般的にも禁止されています。）
- ⊘ 子供に操作させないでください。
- ⊘ 坂道での駐車はしないでください。  
（ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があります）  
（大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。）
- ⊘ 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。
- ⊘ 本人を座らせたままで、本体を抱えて移動しないでください。持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。
- ❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。  
（身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や取り扱い業者にご相談ください。）
- ❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- ⊘ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ⊘ 自動車の中では使用しないでください。車内で車いす・バギーにかかる様々な動き、負荷は予測ができないため、フレームの強度、安全面については保証いたしかねます。
- ❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- ⊘ 改造や分解はしないでください。

## ● 注意 ( 使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が 発生する可能性が想定される事項です。 )

- ❗ 医師の処方で製作された場合
  - ⊗ 本人以外での使用はしないでください。  
(個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出ししたりしないでください。)
  - ⊗ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。
- ❗ エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドアなどの付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。
- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が運動して動きます。指などをはさまないように注意して操作をおこなってください。
- ❗ 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。(開き防止ベルト、および持ち運びについては9～10ページを参照してください。)
- ❗ 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ⊗ 折りたたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⊗ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⊗ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⊗ 押し手グリップに重い物を引っ掛けしないでください。状況によっては、急に後方に倒れることがあります。
- ⊗ 子供が背もたれなどにぶらさがらないようにしてください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- ⊗ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⊗ 保護者・介助者などが寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⊗ 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⊗ シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- ⊗ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ❗ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⊗ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスタンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⊗ 水中での使用は絶対にしないでください。
- ⊗ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかる場所を避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

## 各部の名称



※アンダートレイはオプションです。

## 製品構成

		個 数
●基本フレーム		1
●調節スリングシート（背・座）		1
体幹サポート インナーパッド	体幹	左右1対
	骨盤	左右1対
レッグサポート		1
●シートユニット	背シート	1
	座シートクッション	1
	スカートガード	左右1対
	ヘッドサポート	1
	トランクサポートベルト	1
	骨盤サポートベルト	1
●ダイヤルロック式押し手グリップ		

## オプション部品

●日除け
●アンダートレイ
●キャリパーブレーキ
●テーブル

## 使用前点検

- ◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ◎折りたたんだ状態から開いたときは、各部のロックが確実に効いているなど、正しく開いていることを確認してください。
- ◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- ◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないことを確認してください。
- ◎ガスダンパーが正常に作動すること（補助力が効いていること）を確認してください。



## 各部の取り扱い

### ●折りたたみレバー

REST-wagonを折りたたむ際に操作します。

レバーを閉じる、もしくは開くとロックが解除します。折りたたむのときは、基本的にレバーを閉じる方向にパイプごと握ってロックを解除してください。折りたたみから開くときには自動的にロックされますが、必ず左右のロックがかかっていることを必ず確認してください。

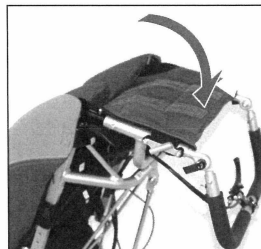
ロックピンが表面よりわずかに出ているぐらいが、ロックの目安です。

凹んでいるときはレバーにガタつきがあり、ロックされていません。

背フレームにも同様のロック折りたたみ機構があります。この折りたたみレバーの方は開き方向で操作してください。

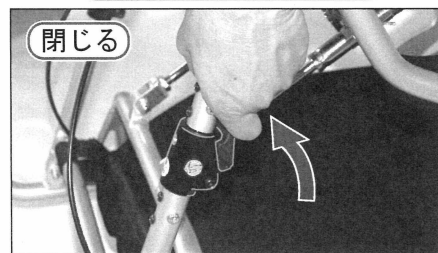


折りたたみレバー

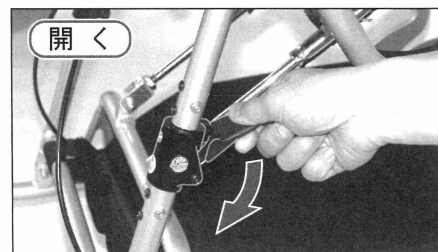


背フレームの折りたたみ

前足の折りたたみ操作



閉じる



開く



- ・折りたたむときのレバー操作(ロック解除)時には、手や指などはさまないように十分に注意してください。
- ・近くに小さなお子様がいないことを確認してください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。

### ●ティルトレバーとリクライニングレバー

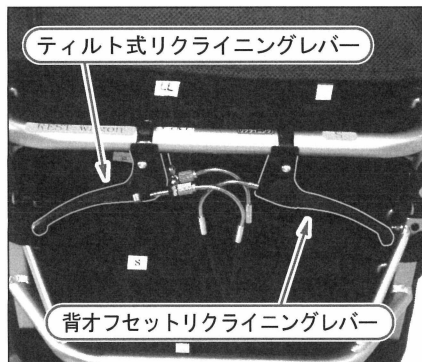
リクライニング用(ティルト用・背リク用)レバーは、無段階で調節がおこなえます。レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック(角度固定)できます。

#### ① ティルト式リクライニング (ティルト)

ヘッドサポート～フットレストまでが一体となって背座面角度一定のまま、リクライニングします。

#### ② 背オフセットリクライニング (背リク)

背もたれのみがリクライニングします。



ティルト



リクライニング



- ・リクライニング(ティルト)角度を調節するときは必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。乗っている方の体重を支えるように操作してください。
- ・リクライニング(ティルト)レバーのあそびが多くなってきたら、操作がスムーズにできなくなります。そのようなときはワイヤーの張り調整をおこなってください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。

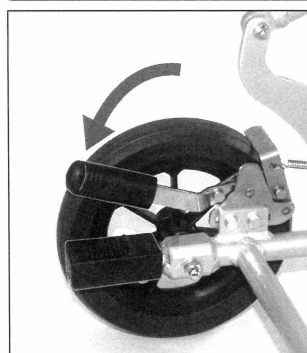
### ●ブレーキ

停車するとき、乗り降りのときに使用してください。ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。

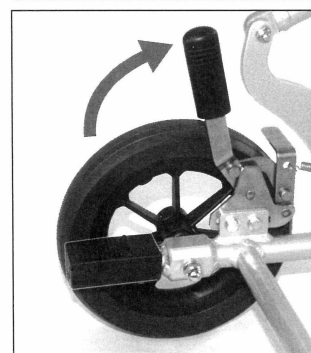


- ・乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- ・坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ・ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です。すみやかに取り扱い業者にご相談ください。

ブレーキがかかった状態



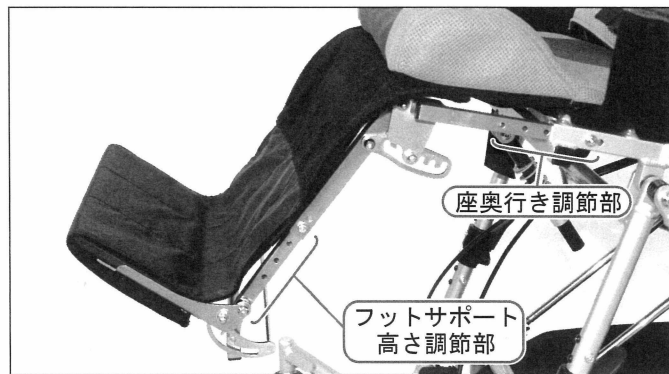
ブレーキを解除した状態



## 各部の取り扱い

### ●座奥行き調節とフットサポートの高さ調節

使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。  
ボルト・ナットにより設定されています。  
座奥行き調節は10mm間隔で、フットサポートの高さ調節も同じく10mm間隔で調節できます。座の奥行きを伸ばしたときは、座クッションも前方へ取り付けてください。



### ●レッグサポートのエレベーター

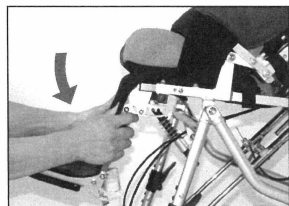
#### ・上げる設定の操作

レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のエレベーター金具(ノコギリ金具)を指で押し上げながらレッグサポートを上げてください。  
下げきりから5段階、約16度きざみで角度設定ができます。



#### ・下げる設定の操作

レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のエレベーター金具(ノコギリ金具)を指で押し上げながらレッグサポートを下げてください。



### ●フットサポートの角度調節

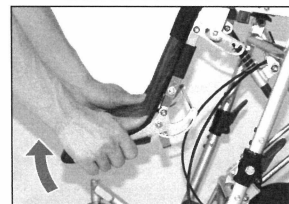
#### ・開く設定の操作

フットサポートをかるく持ち上げ、左右のフットサポート角度可変金具(ノコギリ金具)を指で持ち上げながらフットサポート開きます。上げきりから3段階、約19度きざみで角度設定ができます。



#### ・閉じる設定の操作

フットサポートの先端を持ち上げながら適切な角度に設定してください。

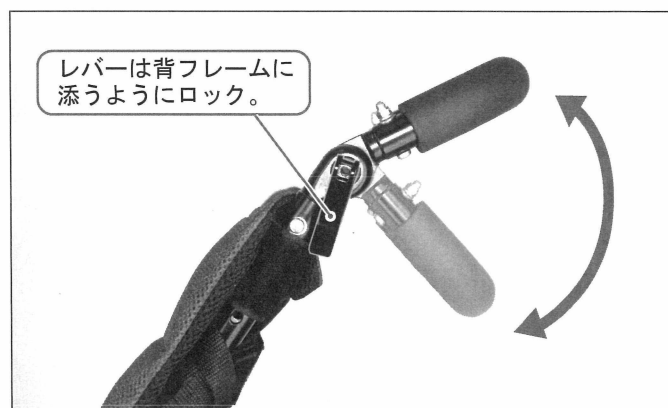
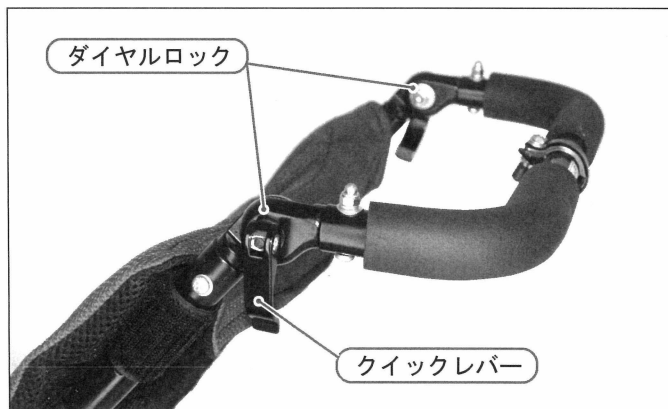


① 指をはさまないように、注意して操作してください。

### ●高さ可変押し手グリップ

ティルト角によって、押しやすい高さに調節できる可変式の押し手グリップです。

押し手グリップの付け根左右にあるクイックレバーを解除して(開いて)押し手の高さを変更したら、ダイヤルロックの刻みのかみ合うところで、クイックレバーをしっかりとロックして(閉じて)ください。折りたたんだ際に、さらにコンパクトにする場合にも操作してください。



・押し手の角度を変更したときは、クイックレバーのロック(左右)を確実にしておこなってください。クイックレバーのロックがゆるいと、押し手グリップが急に下がるなどして危険です。

・子供がぶら下がったりしないよう注意してください。またかばんや荷物をかけないでください。

・クイックレバーをロックするときは、背フレームに添うようにしてください。前方や上方など飛び出る方向でロックしないでください。

## 各部の取り扱い

### ● トランクサポートベルト・骨盤サポートベルト

#### [トランクサポートベルト]

身体により近い、背シートのダブルファスナーからベルトを取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。

長さを取り付け高さの調節がおこなえます。(マジック式) 取り付けの際、高さを合わせる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。

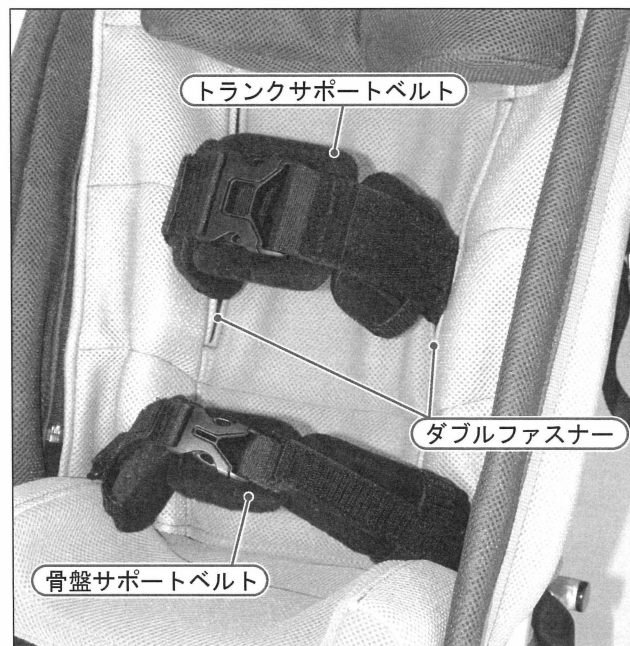
開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかり閉じてください。正面のバックルを「カチッ」と奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

#### [骨盤サポートベルト]

クッション性の高い腸骨パッド(左・右)によりベルトの当たりをやわらげ、またサポート力を高めるためにバックルの左右にあるマジックテープでベルトの締め加減の微調整をおこなうことができます。

(この微調整はベルト装着後におこなうことも可能です。)

ベルト全体の長さは、取り付け部のアジャスターで調節してください。



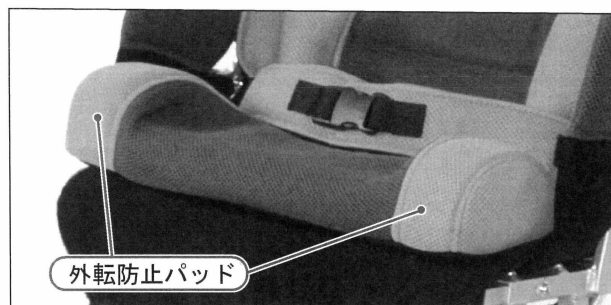
- ・処方上、必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。
- ・ベルト類はバックルを「カチッ」と奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

### ● 座シートクッション

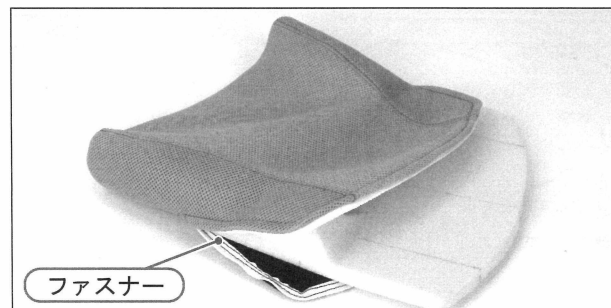
座シートクッションには、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカーサポート(ウェッジ)と脚の開きを支える外転防止パッドが備わっています。

クッションの形状でアンカーサポートの機能をもたせていますが、さらに座スリング調節で矢状面方向の調節をおこなうこともできます。

カバーを洗濯する際は、後方のファスナーを開けて必ず中のウレタンクッションを取り出してください。



- ・決してクッションが入ったままで洗濯しないでください。ウレタンクッション、カバーともに乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。



### ● キャリパーブレーキ (オプション)

走行中や坂道でスピードを減速する役割のブレーキです。

ブレーキレバーは、強過ぎる力で急に握りこむとワイヤーを破損してしまうこともあります。タイヤがロックしない程度の力で操作してください。



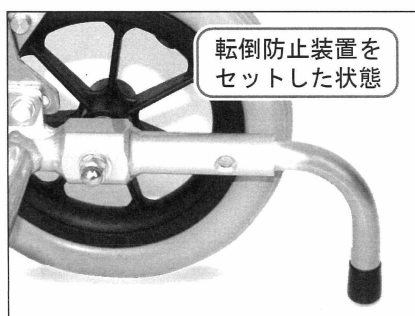
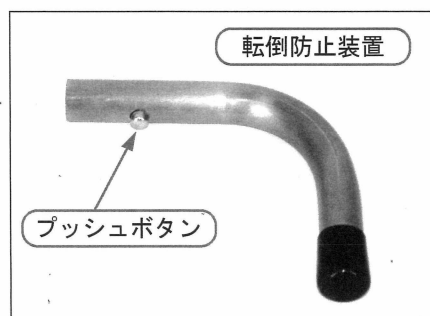
- ・キャリパーブレーキの効きが弱くなってきた、または左右の効きに違いを感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの張り調整をおこなってください。



## 各部の取り扱い

### ●転倒防止装置(オプション)

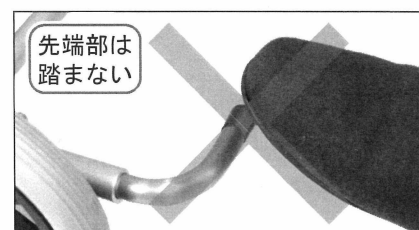
REST-wagonは、ティルトやリクライニングの倒し角により後車輪をやや後方にレイアウトしておりますが、使用環境(坂道や傾斜が多いなど)やティルトを倒したときの後方安定性に不安定な様子が見られたときは、転倒防止装置(オプション)の取り付けをおすすめします。



#### (取付け方法)

ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。

転倒防止装置の下側にあるプッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出てセットされます。取り付け後は、転倒防止装置が確実にセットされていることを必ず確認してください。



#### <使用方法>

転倒防止装置は、後方転倒を防ぐためのものです。必ずセットした状態でお使いください。ただし、転倒防止がひっかかる、または段差越えが頻繁にあるなど、場面によっては向きを変更して解除することができます。解除は、プッシュボタンを操作して、転倒防止装置を本体内側(横向き)に回転させてください。フレーム内側に空いている穴のところで再びプッシュボタンが設定されます。この解除の状態では、転倒防止装置は機能ません。その場面が済んだら再びセットしてください。



- ・ 転倒防止を内側に設定した状態で、ティッピングする際は、決して先端部を踏まないでください。転倒防止装置のプッシュボタンが破損するおそれがあります。パイプが曲がっている根元あたりを踏むようにしてください。
- ・ 転倒防止装置は後方への安全を確保するための装備です。そのためティッピングによる段差越えは困難になります。段差を越えるときは、段差の少ないところを探るか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。転倒防止装置と地面の間で足などを挟まないよう注意してください。

### ●アームサポート金具(オプション)

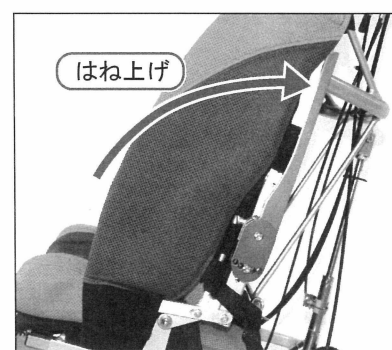
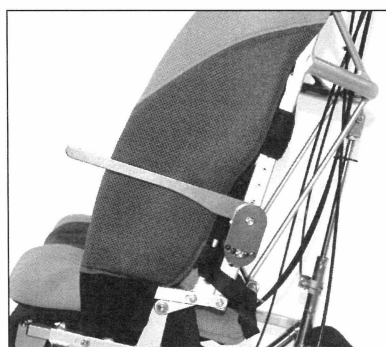
当社製の車いすや座位保持装置に取り付けることができる、はね上げ開閉式のアームサポート金具です。

側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることで乗降の負担を軽減することができます。また、背フレームの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。

下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階ずつ11度刻みで角度が変更できます。

アジャスターボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。

※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。



- ・ 必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。 金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などでけがを負うおそれがあり危険です。



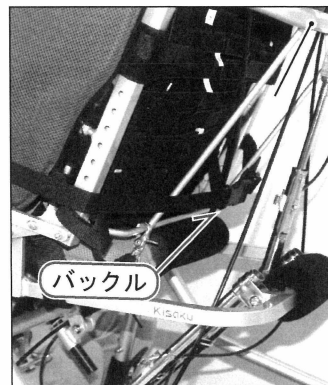
## 各部の取り扱い

### ●テーブル(オプション)

腕の重さを支えて身体が側方へ傾かないよう、または自ら肘をついて(前腕部を支持面に)脊柱を伸展するなど、姿勢を保持するためのクッションテーブルです。

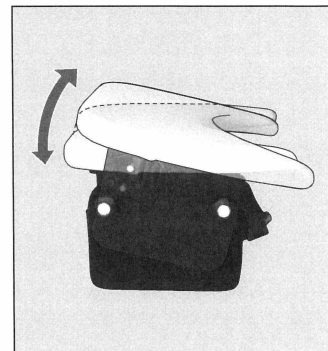
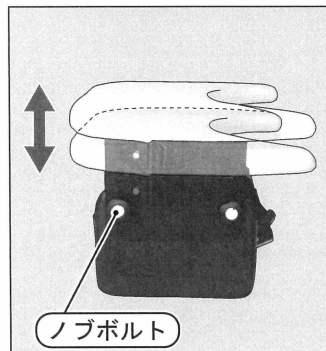
座面の上にのせて使用します。

取り付けベルトを左右側方から背フレームにまわして、バックルで「カチッ」と確実に装着してください。



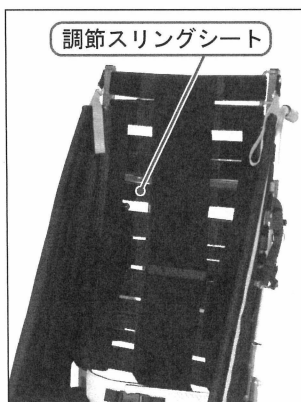
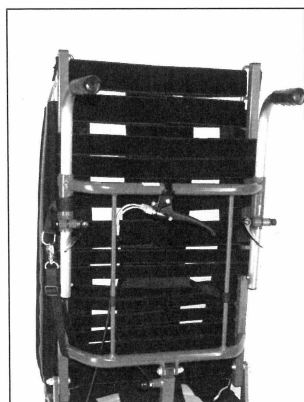
天板は成長に合わせての高さ調節と車いすの背もたれの倒し角度によっては、腕をのせる天板の角度の調節がおこなえます。

テーブル側面のノブボルトと脚部の高さ調節穴位置によって、適切な高さや角度に設定してください。ノブボルトは、ゆるまないようにしっかり締め込んでください。



- ・火気に近づけないでください。燃えたり、熱くなって火傷するおそれがあります。
- ・直射日光下では表面が熱くなるおそれがあります。火傷などに十分ご注意ください。
- ・踏み台や腰掛などその他の目的で使用しないでください。テーブルが破損する、またはバランスをくずして転倒するなどしてけがをするおそれがあります。

## 調節スリングシートについて

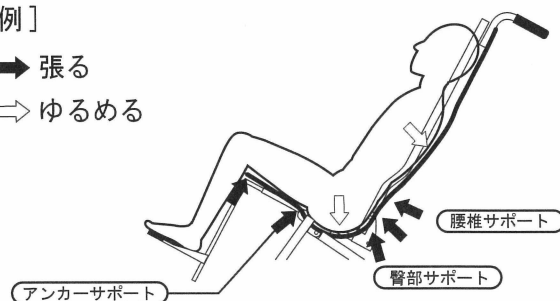


帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。

矢状面に加え、水平面の調整もおこなえます。

### [調整例]

- ➡ 張る
- ⇨ ゆるめる



背もたれは、①骨盤の前後の傾き(背もたれ下部) ②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部) ③腰部の支え(背もたれ腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中のでこり骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。

座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。



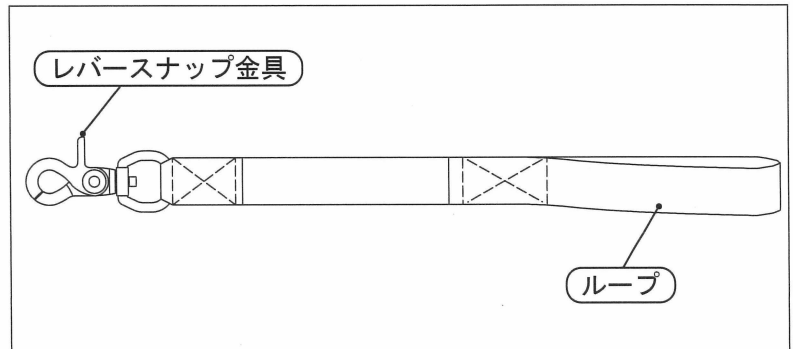
長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

## 開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはREST-wagonを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

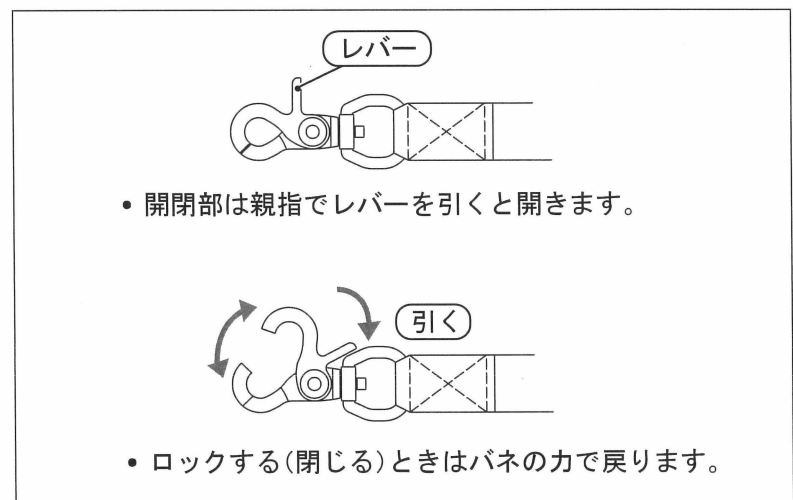
### ● 開き防止ベルト・各部の名称

- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をベースフレームのサイドバーにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。



### ● レバースナップ金具の取り扱い

レバースナップ金具をベースフレームの受け金具にかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを指で引いて開いてください。開いたままベースフレームのサイドバーにかけたらレバーを離してください。自動的に閉じてロックがかかります。



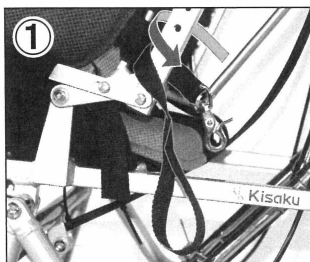
- レバースナップ金具の開閉部で指などはさまないように注意してください。
- ベースフレームのサイドバーにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。

## REST-wagon本体への取り付け方法

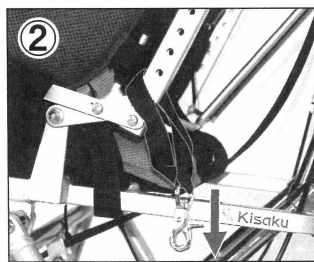
開き防止ベルトは、左右どちらかの背フレームパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています)

取り付け位置は背フレーム下端あたりを目安にしてください。

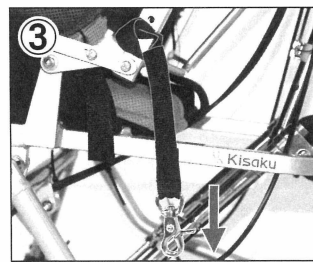
本機を折りたたんだときに、開き防止ベルトをベースフレームのサイドバーにしっかり固定することができます。



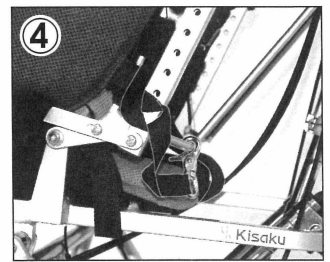
① 開き防止ベルトのループを背パイプ内側から背フレームのスリット(またはスリングの間)に通します。



② ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。ベルトがねじれないように注意して通してください。



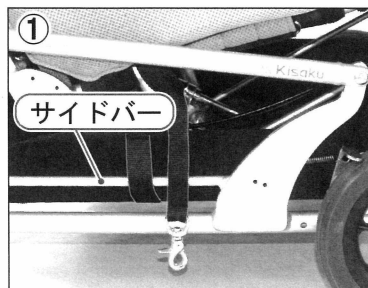
③ ループのところに余りやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。



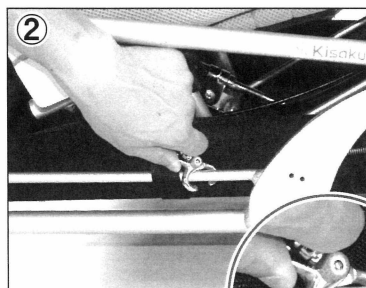
④ 通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をトランクサポート用ピラーにかけてください。



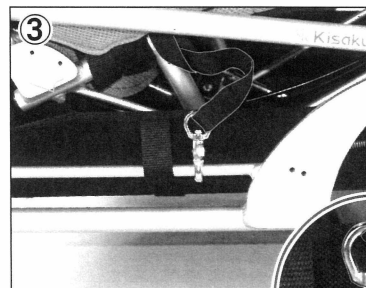
## 開き防止ベルトの使用法



折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトをベースフレームの上側にあるサイドバーに取り付けます。ベルトがねじれないように注意してください。



レバースナップ金具を開いてサイドバーにかけてください。



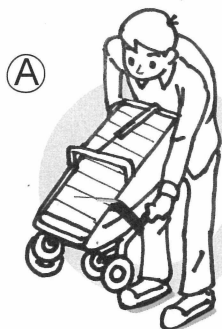
本機を持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、サイドバーに確実にかかっていることを確認してください。

- ・開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などをはさまないように注意してお取り扱いください。
- ・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- ・開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態(ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど)では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ・ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- ・車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

## 車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

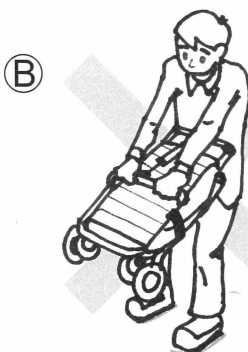
❗ 自動車のトランク(荷室)に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図①のように、後輪のついているベースフレームをつかんで、本機全体を底からかかえるようにして持ち上げてください。



○ベースフレームを持ち、全体をかかえてください。

図②③のように、背フレームのパイプのみ、もしくは前足フレームや後足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。



×背パイプのみを持っている。



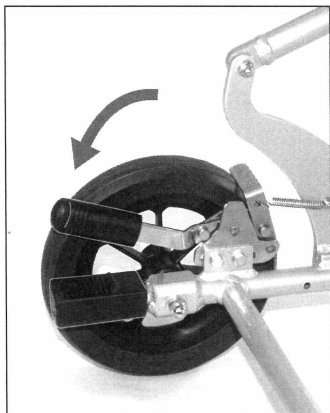
×前足フレームのみを持っている。

## 折りたたみ方



- ・折りたたみおよび開き操作のときは各部が運動して動きます。指などを挟まないよう注意して操作をおこなってください。
- ・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- ・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

1



フットブレーキ(左・右)をかけてください。  
 (注: アンダートレイの荷物や機器は別に移してから、折りたたみを始めてください。)

必ず手順に従って折りたたみ操作をおこなってください!  
 手順を誤るとコンパクトに折りたためなくなります。

2



ティルトをとるところまで倒してください。



手ばさみ注意!

3

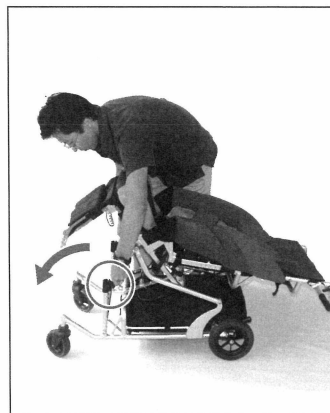


リクライニングをとるところまで倒してください。  
 次にフットサポートをたたんでください。

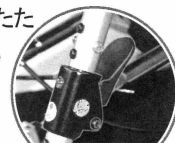


手ばさみ注意!

4



前足フレーム左右の折りたたみレバー(4ページ参照)を握りこんでロックを解除します。握りこんだまま前脚パイプを前方へ送り出すようにして折りたたんでいきます。



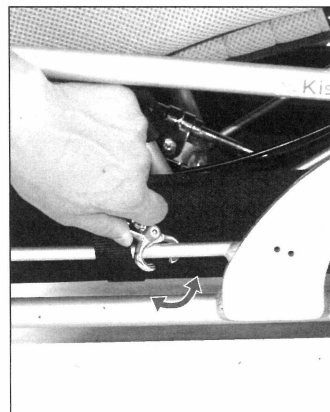
折りたたみレバー



手ばさみ注意!

## 開き方

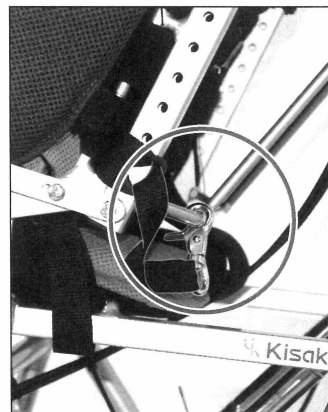
1



開き防止ベルトを外してください。

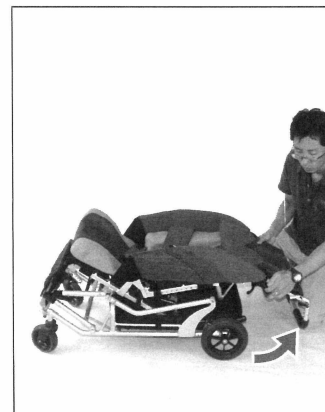
必ず手順に従って開き操作をおこなってください!  
 手順を誤ると部品がフレームに引っかかるなどして、開かなくなることがあります。

2

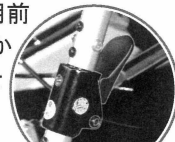


通常の使用(折りたたんだとき以外)では、ベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をトランクサポート用ピラーにかけてください。

3



背フレームの折りたたみレバーのところから背フレームを開いてください。使用前にはロックがかかっていることを必ず確認してください。



折りたたみレバー

4



背座フレームを持ち、斜め後方へ引き上げるようにして開いてください。



手ばさみ注意!

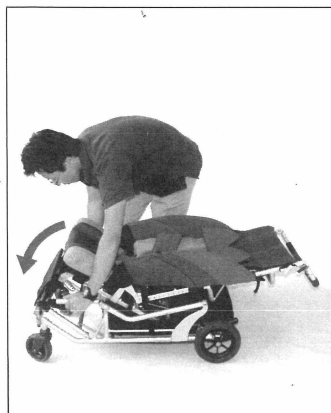


ロック確認!!



- ・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具がサイドバーに確実にかかっていることを確認してください。
- ・開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
- ・開き防止ベルトの取り扱いについては、9～10ページを参照してください。

5



背座フレームが自重で自然にたたまればじめたら、かかってくる重さを支えながら、前方斜め下へゆっくりとたたんでください。



手ばさみ注意！



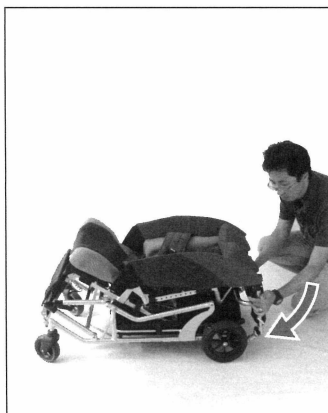
90°より少し開き

押し手ハンドルの角度を90度から少し開いた設定にしてください。

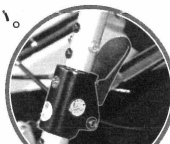


手ばさみ注意！

6



背フレームの折りたたみレバーを操作して、背フレームを折りたたんでください。

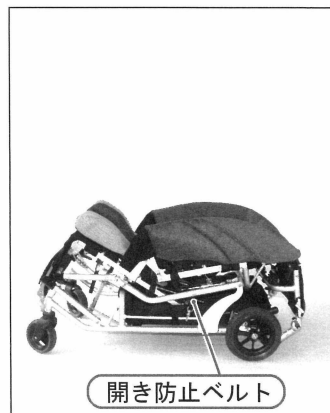


折りたたみレバー



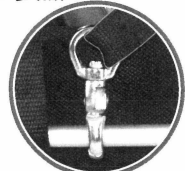
手ばさみ注意！

7



開き防止ベルト

背フレームについている開き防止ベルトを装着してください。(9～10ページ参照)

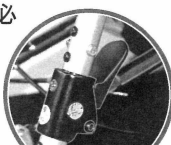


ロック確認！！

5



前足フレーム左右の折りたたみレバーは、自動的にロックされますが、ロックが確実にかかっていることを必ず確認してください。(4ページ参照)



折りたたみレバー



ロック確認！！

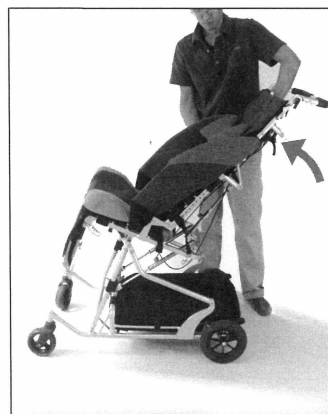


ティルトを起こしてください。(乗せやすい適切な角度に設定してください。)



手ばさみ注意！

6



リクライニングを起こしてください。(乗せやすい適切な角度に設定してください。)



手ばさみ注意！

7



フットサポートを開いてください。また押し手のダイヤルロックを操作して、押しやすい角度に設定してください。使用前にはロックがかかっていることを確認してください。



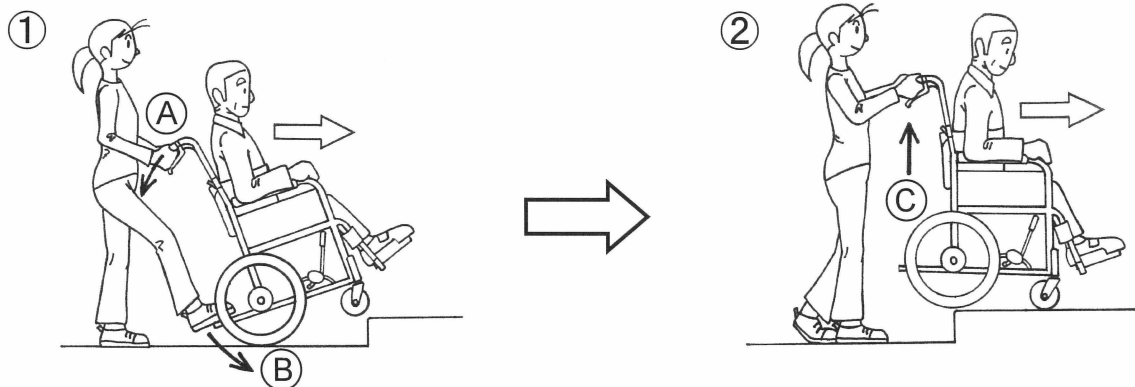
手ばさみ注意！



ロック確認！！

## 車いすの取り扱い

### ● 段差越えの仕方



#### ① 前輪が段差の直前にきたら

A. 両手で押し手グリップを手前にひきながら・・・

B. ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるのでそのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

#### ② そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

C. 押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。

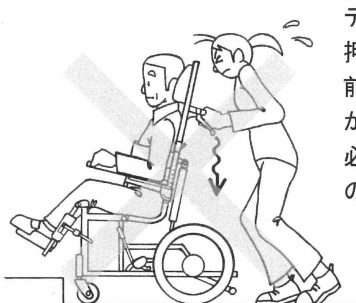


絶対に勢いをつけて乗り越えようとししないでください！

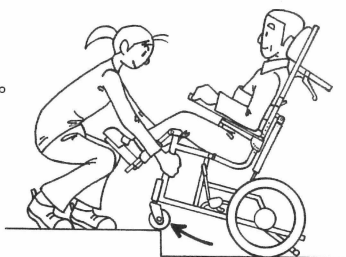
(前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。)

#### ⊗ 押し手グリップだけでの前輪上げは禁止！

後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる



ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようとすると車いすが破損するおそれがあります。必ず押し手とティッピングバーの両方を利用してください。



リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作での段差越えは困難な場合があり、無理をすると車いす破損することがあります。そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

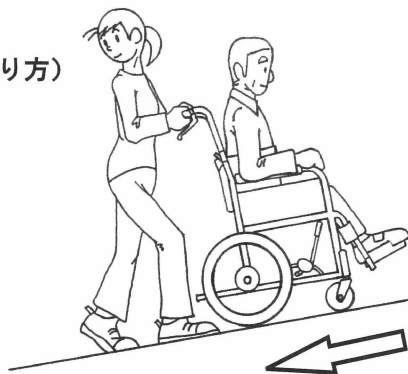
### ● 坂道での操作について

(登り方)



登り坂

(下り方)



下り坂

坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きで進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。



押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

## お手入れ・メンテナンス

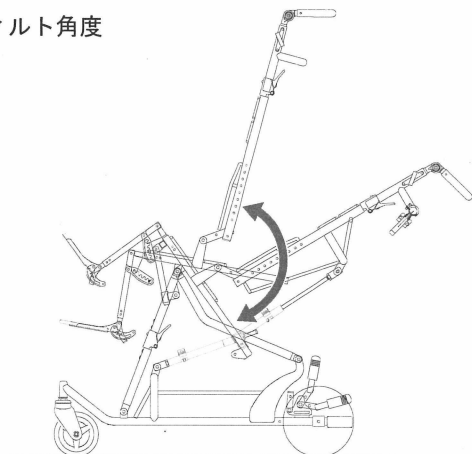
- ・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。  
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。  
特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- ・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。  
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- ・シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- ・インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。  
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- ・調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。
- ・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

# 仕 様

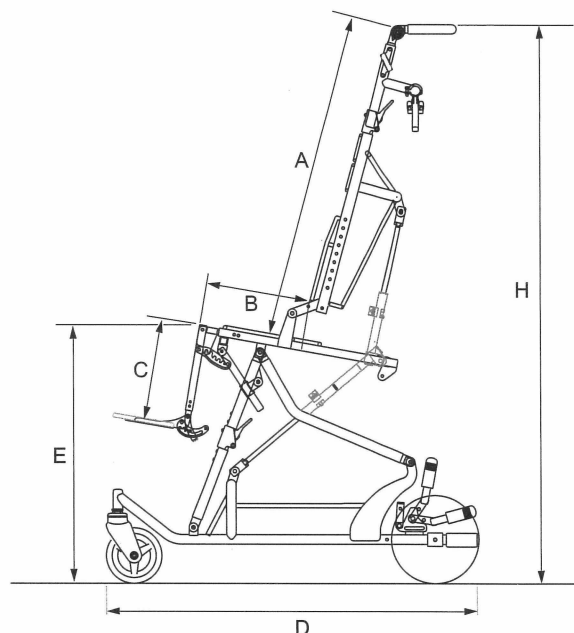
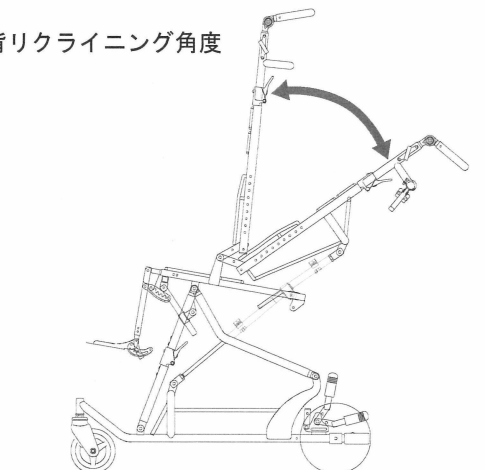
		S	M	L
背幅/座幅	mm	424/385	424/385	449/410
背 高 さ (A)	mm	680	680	750
座奥行き (B) 背スリング面より	mm	200~290	230~320	280~390
足台高さ (C)	mm	200~270	230~320	250~360
車体寸法(W×D×H)	mm	529×850×1270	529×850×1270	554×850×1330
支 点 高 (E) ティルト起し時の前座高さ	mm	587	587	595
折りたたみ寸法(W×D×H)	mm	545×910×500	545×960×500	570×990×500
ティルト角度 背スリング面を基準	度	10°~55°	10°~55°	10°~55°
背リクライニング角度	度	95°~135°	95°~35°	95°~135°
エレベーター角度		5段階(約16度ピッチ)	←	←
フットサポート角度		3段階(約19度ピッチ)	←	←
基本重量(シート重量含む) ※アンダートレイを除いた重量	kg	約15.0	約15.5	約16.2
調節スリングシート	材質	ナイロン100%		
シートユニット	材質	ポリエステル100%		
対応身長	cm	約90~110	約110~130	約125~145

※基本重量=基本的なシートユニットを取り付けた場合の重量

ティルト角度



背リクライニング角度





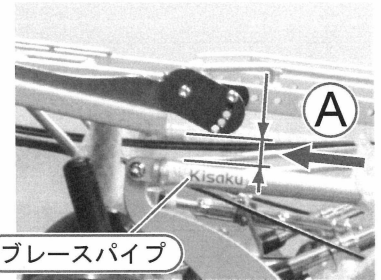


取り扱い業者・連絡先

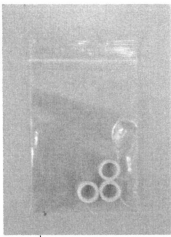
# REST wagon M・Lサイズ アームサポート金具(AS-2)を取り付けた場合の注意

アームサポート金具を取り付けて折りたたんだ際、矢印④の空間（アームサポート金具とブレースパイプのすき間）がせまくなる場合があります。15mm以下になると手や指をはさむおそれがあるため、以下の手順に従って調整をお願いします。

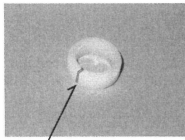
※Sサイズにおいては、この微調整は不要です。



## セット内容

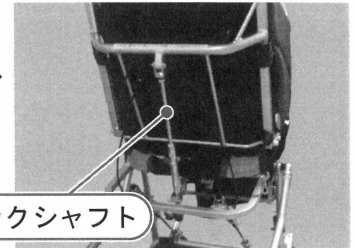


カラー 3個



切り込み加工がされています。取り付ける際はここを開いてはめ込みます。

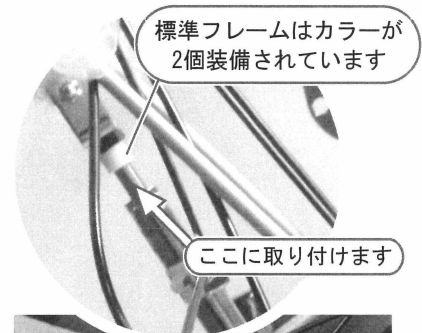
この付属品のカラーをアームサポート金具の取り付け高さ・角度によって、背リクライニング用メカロックのシャフトに挿入してください。



メカロックシャフト

## カラー取り付け方法

- ① 折りたたみをおこない、④の空間（アームサポート金具とブレースパイプ）が15mm以上であるかの確認をしてください。
- ② ④の空間が15mm以下の場合、背リクライニング用メカロックシャフトにカラーを取り付けてください。  
④の空間が15mm以上確保されるまで、必要な個数を取り付けてください。
- ③ カラーを取り付ける際は、カラーの切り込み部分を写真のようにメカロックのシャフトに押しあてながら開いて取付けてください。



取り付けの際は、切り込み部分の切断面で指など挟まないよう十分に気を付けておこなってください。

※アームサポート金具の取り付け高さ・角度によっては④の空間の寸法は変わります。

※付属のカラーを1個取り付けるごとに背リクライニングの倒れ角度が約1.3度少なくなります。



## ご注意

アームサポート金具を以下の条件で取り付けて折りたたんだ状態で最も④の空間がせまい設定です。

- ・アームサポート金具取り付け高さ：一番上
- ・アームサポート金具取り付け角度：一段目（アームサポートの角度）  
が最も前下がりの状態

上記(写真)の条件で設定する場合は、手や指をはさむおそれがあります。必ず上記の手順で調整をおこなってください。

